

水害から学んだこと

野島 瞳

あつという間に水が上がって何も持たずに二階へにげました。全ての家々が停電し、何も情報がなく、ただ水流の音ばかりでした。私の学用品はあとかたもなく全て流され、家族の大切なものも一しやんにしてなくなりました。家族の団らんも失ってしまいました。また、このたつた一度の水害で多くの人が

No. ....

No. ....

々が、だく流のぎせいになってしまいました。本当は私もそうなっていたかもしれない、と思うと、改めて水のこわさを感じました。

しかし、暑中はい多くの人が一丸となり、復こう作業に取りかかりました。他の県の人々が、私達のためにボランティアに来て下さり、救援物資など様々な役立つものを寄付してくださいました。この助けがなかったら、。そう思うと、とてもうれしく思います。

このような災害は、私達にとつて「こわい

三栄市栄南2番18号

499

だけではなく、たくさんのことを教えてくれ  
 ました。水の本当のおそろしさはもちろん、  
 命の尊さを教えてくれました。

悪いことだけではなく、この水害を通して  
 人々の暖かさ。本当に人間らしいな、と今で  
 もすごく思っています。

ただ一つ、家を直して元の生活に戻って  
 る人も多い中、今まだに仮設住宅で不自由な  
 生活を送っている人がいます。その半分が  
 年よりで、家を建てるとお金もなく、とて

困っている人と、私は耳にします。

そんな人達が少しでも早く、安心した所  
 生活できるような。私は今、自分ができること  
 から手伝っていきたいと思います、活動して  
 います。

近くで開かれていますお茶の間広場という仮  
 設住宅の人達をほげますつどいがあります。  
 私達は、歌や劇をひろうするなどして活動し  
 ています。これから継続していければいいな  
 と思います。